

2020 東京オリンピック・パラリンピックキャンプ地等誘致に関して

「県有施設富士北麓公園各競技場等」新設及び改修について（要望案）

平素より、富士北麓地域のスポーツ振興に際しまして格別なるご支援ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

ロンドンオリンピックではレスリングにおいて当地域出身である米満達弘金メダリスト、カヌー代表として渡辺大規選手を輩出したことは、まだ記憶に新しいところであります。

2020 東京オリンピック・パラリンピックが開催される時に富士北麓地域の中心核スポーツ施設である県有施設を仮称「スポーツベースキャンプ in Mt. Fuji」（障害者スポーツ競技も含む）キャンプ地として国内外へアピールしていくためには施設の新設をはじめ、改修改善が必要となります。

富士北麓公園陸上競技場等周辺競技場は標高千百メートルのところに位置し、世界文化遺産に登録された雄大にして尊厳を誇る富士を眺めながら、スポーツを楽しむ数少ない場所であり、夏季のシーズンには、各施設の利用は常に混雑を極めております。しかし、冬季期間、特に十二月より三月までは「冬季整備期間」として屋外施設は陸上競技場を除き開放されていません。（陸上競技場も実質利用されていない。）利用効率を高めるためには、冬季期間の活用策、施設の改善策が不可欠であります。

各施設は昭和六十一年に開催された「山梨国体」の前後に建設整備されたもので、以来三十数年の時を経ています。そのため修繕や改修が必要とされており、現代のスポーツ事情に合った、使う者、見る者、支える者、誰でもが集える施設の新設、特に公式競技場としては、言うまでもなく競技力向上とスポーツ振興が図れる施設の整備、改修が不可欠であります。

つきましては、2020 東京オリンピック・パラリンピックが開催されるこの機に富士北麓地域のスポーツの更なる振興と普及併せて地域の発展が構築されまじよう施設の新設及び改修改善が図られますよう格段のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。

なお、各施設の要望については、すでに平成二十六年二月七日付で山梨県体育協会へ提出済みです。

一、富士北麓公園各競技施設改修・改善・新設

(一) 陸上競技場（陸上競技対応）

・補助競技場の新設。（屋内施設）

・施設内にフリーウエイト、コンデイションルーム、役員室等の整備拡充。

(二) インフィールド内芝生の全面張り替。(天然芝)
球技場(サッカー・ラグビー対応)

・芝生の全面張り替え。(天然芝)

・会議室、役員室等の整備拡充。

・電光掲示板の整備

(三) メイン・サブアリーナ(レスリング対応)

・冷暖房設備完備

・サウナ室の完備

・レスリングマット整備

(四) 障害者スポーツ

・障害者スポーツに対応した施設の充実

(五) その他

・富士北麓公園競技施設までの公共交通機関の確保及び整備

・首都圏、横浜・東海地区等からのアクセス整備

・2018年第七十二回冬季国体、全国高校総体スケート競技会開催に向けての競技場整備(屋内施設)